

令和2年度 地域ケア全体会議の開催について

高齢者福祉課 基幹型センターグループ

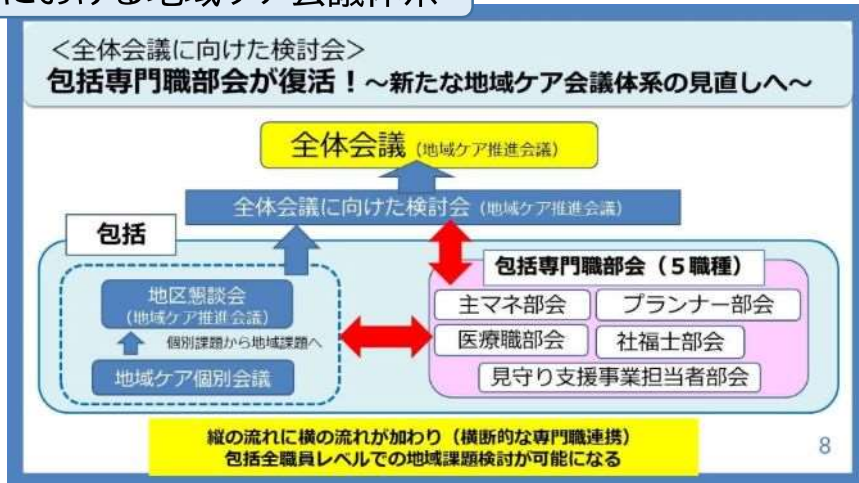
1、豊島区における＜全体会議＞について

制度・事業計画に基づく包括運営、相談支援では解決できない全区的な課題

会議開催により政策形成に繋げることで

個別課題、地域課題を解決し地域包括ケアシステムの実現を推進する

今年度における地域ケア会議体系



2、今年度の＜全体会議＞の開催に向けて

～取組テーマ「**コロナ禍で見えた地域課題**」～

新型コロナウイルス感染症拡大により、
地域において新たな課題が山積。
包括業務にも支障が出てきている。

「全体会議に向けた検討会」を毎月開催。
課題を4つにカテゴライズ

「全体会議に向けた検討会」
「包括専門職部会」にて
課題に対するアクションを検討。

1 利用者の介護サービスへの影響

2 高齢者の心身の健康状態について

3 地域とのつながり

4 介護者との関係

「検討会」参加メンバーが4グループに分かれ
検討をまとめる

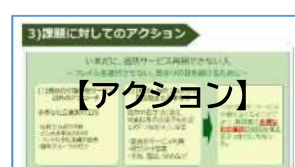
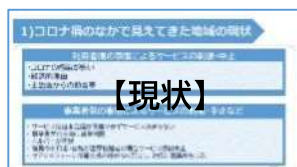
3、今年度の＜全体会議＞の開催について【資料2-2参照】

令和3年2月19日(金)13:30～15:00

豊島区役所507.508.509会議室

1)グループ検討報告

各グループごとに、【現状】【課題分析】【アクション】を発表



3、今年度の＜全体会議＞の開催について【資料2－2参照】

2)次年度取組みに向けてのまとめ

各グループの出した【アクション】の方向性を以下の3項目に整理

- 1)介護予防・フレイル予防
- 2)高齢者の見守り
- 3)介護する人・される人の支援

全体を通して（来年度の施策）

	介護予防 フレイル予防	高齢者の見守り	介護する人 される人の支援
令和3年度より 開始する事業 (新規拡充事業)	・高齢者の保健事業と 介護予防事業の 一体的実施	・ウィズコロナ 呼びかけ事業（継続） ・高齢者あんしん位置情報 サービス利用料助成事業	・夜間緊急受付及び 休日窓口の開設 ・在宅要介護者の 受入体制整備事業 ・第2層生活支援 コーディネーター事業 ・救急医療情報キット 配布事業
今後、 検討していく項目	・高齢者への訪問・出張相談、介護予防 推進支援、見守り強化事業 ・区主催の介護予防活動 の拡充 ・ウィズコロナ呼びかけ事業と介護予防活動の連動		・「Ayamu」「MCS」の 活用
地域ケア会議・包括専門職部会での検討・提案・実施			

38

今後の「全体会議に向けた検討会」及び「包括専門職部会」にて具体的な取組みについて検討していく

3)前年度以前のテーマについての、区の取組みの報告

【令和元年度:「地域の担い手を支える仕組みづくり」】

- ⇒・社協「**地域の支え手連絡会**」の定期開催
(議題:「リボンサービス」「地域福祉権利擁護事業」)
- ・地域資源データベース「**Ayamu**」の活用
- ・その他「**担い手の発掘・支援**」の取組みについて

4)出席者の意見(一部要約)

- ・コロナにしてもICTにしても、**正しい知識を持ち**ながら「つながり」をきっちり作っていくことが大事。**ICTリテラシー向上**への取組みも世代問わず大切になってくるのでは。
- ・**メディア(としまテレビ)**があるのは**豊島区の強み**。大いに活用すると良い。
- ・コロナ禍での**認知症の方**の状況について
 - ⇒【区】休日の電話対応、日々の報告から、現在の状況が認知機能低下に影響していると感じている。
 - ⇒【包括】昨年の緊急事態宣言明けの6～7月に**認知症の相談**が伸びた。ステイホームが認知機能低下に大きく関係していると実感し、気にして追っている。
- ・この会議で提案された政策・事業が**利用者や家族に届いているかどうか**、引き続き包括の相談を通して**評価を実施**して欲しい。
- ・事業の拡充は素晴らしいが、それを**担う側の実業務の見直し・整理**も必要。

令和2年度

豊島区地域ケア推進会議 (全体会議)

高齢者福祉課
基幹型センターグループ



1

【本日の流れ】

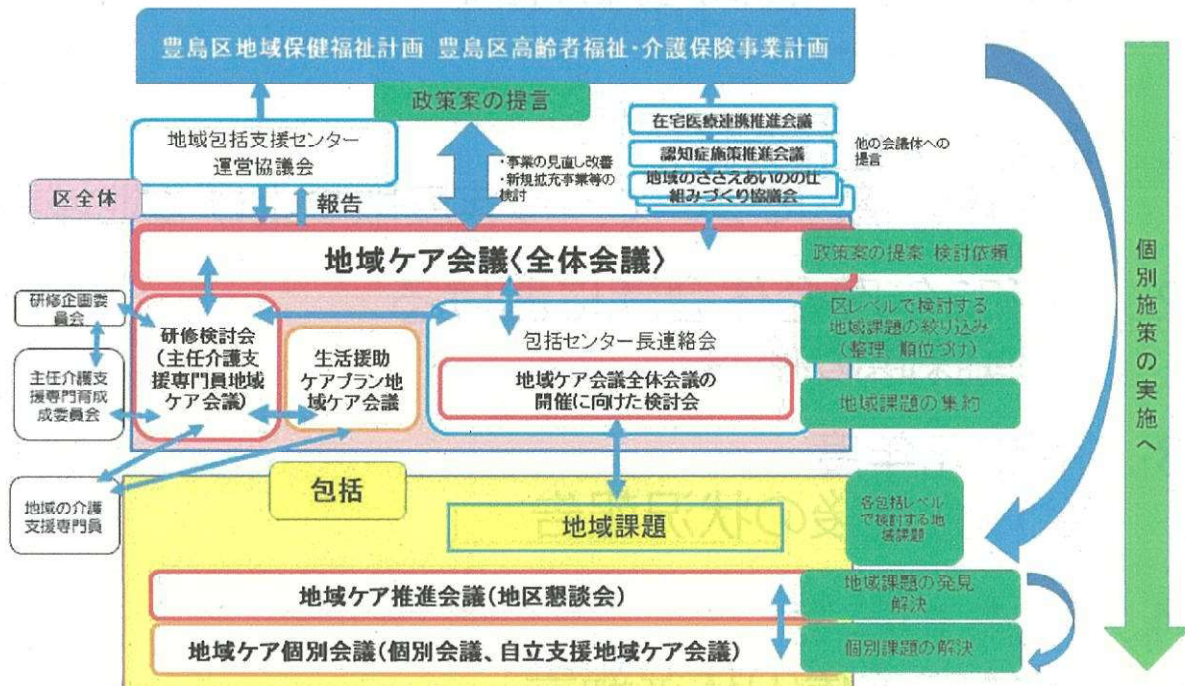
1. 地域ケア推進会議
＜全体会議＞について～今年度取り上げる地域課題
2. 令和2年度全体会議における
地域課題の検討
3. 令和元年度
全体会議後の状況報告
4. 平成30年度
全体会議後の状況報告

2

1. 地域ケア推進会議 <全体会議>について ～今年度取り上げる地域課題

3

<これまでの豊島区地域ケア会議の体系と全体会議の位置づけ>



4

平成30年度 (H30.11月15日 開催)
全体会議で取り上げた地域課題

災害への備え

(関連する会議体なし)

PTの立ち上げを全体会議で報告

医療と介護連携

認知症を地域で
支える

全体会議で
検討

関連する会議体に提言

在宅医療連携推進会議

認知症施策推進会議

包括運営協議会へ報告

5

令和元年度 (R1.11月14日 開催)
全体会議で取り上げた地域課題

地域の支え手を活用
する仕組みづくり

全体会議で検討

関連する機関への働きかけ

豊島区民社会福祉協議会

→令和2年10月より連絡会を設置
(月1回開催)

包括運営協議会へ報告

6

今年度の検討

令和2年度 地域ケア推進会議 全体会議に向けた検討会 (全7回)

【検討メンバー】

- ・各包括センター長及び地区懇談会担当者
- ・高齢者福祉課長、全係長、基幹型センターグループ職員

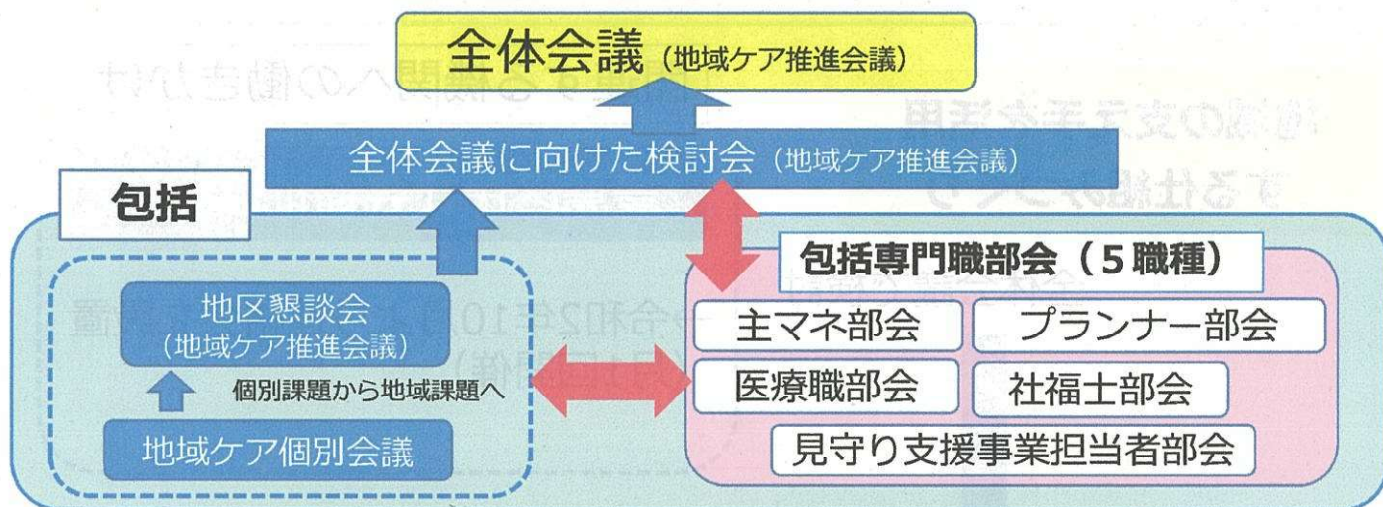


検討回	開催日	検討内容
第1回	7月21日	各包括の個別会議・地区懇談会の情報共有
第2回	9月15日	前年度個別会議の集計データ分析について共有
第3回	10月20日	全体会議の方向性確認、部会立ち上げについて
第4回	11月17日	全体会議のテーマ決め、検討シートの意見交換
第5回	12月15日	全体会議の方向性確認、部会との連動・検討シートについて意見交換
第6回	1月19日	全体会議の方向性確認、地域課題についてグループワーク
第7回	2月16日	全体会議の流れを確認

7

<全体会議に向けた検討会>

包括専門職部会が復活！～新たな地域ケア会議体系の見直しへ～



縦の流れに横の流れが加わり（横断的な専門職連携）
包括全職員レベルでの地域課題検討が可能になる

8

令和2年度＜全体会議＞ 取り上げる地域課題の選定について

9

＜全体会議に向けた検討会＞

コロナ禍で地域の課題が顕在化

新型コロナ感染症拡大により、地域において新たな課題が山積み、
包括業務にも支障が出てきている

4つの課題にカテゴリー化

- 1 利用者の介護サービスへの影響
- 2 高齢者の心身の健康状態について
- 3 地域とのつながり
- 4 介護者との関係

高齢者に対する
区の取り組みの
現状は？

10

【今年度】全体会議における地域課題の検討

現状

コロナ禍における高齢者に対する区での取り組み

➤生活不活発・フレイル予防

- ・「お家でできる！としまる体操」のリーフレット作成、配布
- ・としまる体操のYouTube動画配信
- ・コロナフレイル予防のチラシ・ガイド（日本老年医学会、健康長寿医療センター作成）配布
- ・転倒予防「本日の8ミッション」作成、配布
- ・新型コロナ啓発リーフレット作成、配布セミナー実施 等



11

【今年度】全体会議における地域課題の検討

現状

コロナ禍における高齢者に対する区での取り組み

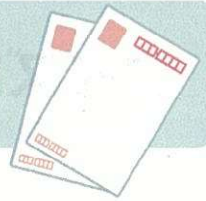
➤見守りの強化

- ・ ウイズコロナにおける呼びかけ事業
- ・ 電話やインターホン越しなど、「対面ではない」見守り活動の推進



12

ウィズコロナにおける呼びかけ事業 状況報告



1 取組概要

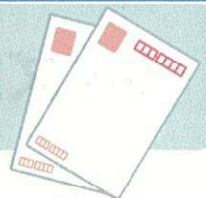
- 75歳以上の全高齢者に**往復はがき**を送付し、新型コロナウイルス感染症の注意喚起にあわせて、生活の困りごと等を記載して返信するよう呼びかけ。
(発送：令和2年9月、令和3年1月)
- 困りごとの内容に応じて速やかに個別相談や具体的な支援につなげられるよう、返信はがきは居住地を担当している地域包括支援センターを宛先とした。
また、本取組の周知や助言に関しては民生委員の協力を得ながら実施。

2 対象者

- 75歳以上の高齢者

13

ウィズコロナにおける呼びかけ事業 状況報告



敬老のお祝いを申し上げます
みなさまが健やかにお過ごしになれますよう、
ご祈念申し上げます。
令和2年9月吉日 豊島区 高齢者

新型コロナウイルス感染症に気を付けましょう
マスクの着用
手洗いの徹底
密閉空間を避ける
体調不良の際は、早めに
医療機関を受診し、
必要に応じて休養を
とってください。

**お困りごとを
ごいませんか？**
豊島区では高齢者総合相談センターで皆様の相談に
応じています。
相談したいことがある、またはセンターからご連絡しても
よろしいかと、以下にお名前等ご記入の上、ご返信ください。

お名前
お電話番号

何か相談したいことはございますか。
(以下の口にごのうえ、ご返信をお願いします。)

☐ ある ☐ 健康面について ☐ 生活について ☐ その他

☐ 特にない

上の内容に添って、「**個人情報保護シール**」をお貼りください。
※ご記載いただいた内容は高齢者総合相談センターにて相談支援業務に活用させていただきます。

9月発送はがき

**皆様の健やかな一年を
ご祈念申し上げます。**
令和2年1月吉日 豊島区

**一人でも悩んで
いませんか？**
豊島区では、高齢者総合相談センターで
皆様の相談に応じています。
何かお困りごとがありましたら以下にお名前等ご記入の上、
お気軽にご返信ください。

お名前
お電話番号

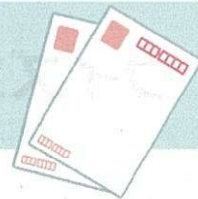
☐ 困っていることがあるため、連絡がほしい。
☐ 今は特に困っていない。
(記載欄(お困りごとの内容)を必ずお書きください)

※上の内容に添って、「**個人情報保護シール**」をお貼りください。
※お返事は、高齢者総合相談センターへ電話にてお願いします。

1月発送はがき

14

ウイズコロナにおける呼びかけ事業 状況報告



	9月発送分	1月発送分	合計
相談あり	1,251枚	390枚	1,641枚
相談なし	3,342枚	2,653枚	5,995枚
合計	4,593枚	3,043枚	7,636枚
(参考)送付対象者	30,696人	30,029人	

(延べ枚数、2月13日時点)

ウイズコロナにおける呼びかけ事業 状況報告



3 取組による効果

- ・自身の健康状態に不安がある方、介護サービス等の存在を知らず困っている方などを必要な支援につないだ。
- ・対象者を一人暮らしに限らなかったため、高齢者のみ世帯以外で複合的な課題(8050問題等)を抱えている世帯を支援につなぐことができた。
- ・「気にしてくれてありがとう」といった感謝の言葉や、「地域包括支援センターを知らなかったが、困ったときには相談に行きます」等の返信
→在宅生活での孤独感や不安感の解消にも効果。

○今後は返信のない方についても、生活状況の把握等を行っていく予定。

2. 令和2年度全体会議における 地域課題の検討

～グループ検討報告～

17

本日の検討：コロナ禍で見えた地域課題

1 利用者の介護サービスへの影響

2 高齢者の心身の健康状態について

3 地域とのつながり

4 介護者との関係



18

令和2年度 地域ケア会議 <全体会議> 「コロナ禍で見えた地域課題」

① 利用者の介護サービスへの影響

発表者：黒田 奈美（西部）

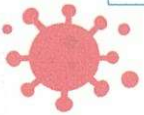
検討メンバー：横尾 真彦（いけよんの郷）

高野 稔（高齢者福祉課）

佐々木 陽子（高齢者福祉課）

三苫 正輝（東部）

阿部 陽子（高齢者福祉課）



19

1) コロナ禍のなかで見えてきた地域の現状

利用者側の事情によるサービスの制限・中止

- ・コロナの感染が怖い
- ・経済的理由
- ・主治医からの助言等

事業者側の事情によるサービスの制限・中止など

- ・サービス担当者会議が開催できずサービス決まらない
- ・事業者が自主的に営業制限
- ・ヘルパーが不足
- ・職員や利用者・家族が濃厚接触者の場合サービス提供中止
- ・ケアマネジャーに情報交換の場がなく孤立し、対応に差異が生じる

20

2)課題分析

利用者側の要因

- ・感染が心配で行かせたくない
- ・元々本人が行きたくなかった

事業者側の要因

- ・職員が感染し、媒介者になる心配
- ・感染症対策が十分にできない不安

訪問サービスではなく、明らかに
通所サービスに影響があった。



・通所サービスを訪問サービス
に切り替えサービスを継続

・一方でサービスを利用しない
でフレイルが進行する方も多い

21

3)課題に対してのアクション

いまだに、通所サービス再開できない人
～フレイルを進行させない、見守りの目を続けるために～

【1】既存の介護予防サービス 以外のアプローチ

多様な社会資源の活用

- ・区民ひろばの利用
- ・としまる体操の利用
- ・フレイル予防知識の啓発
- ・趣味グループの紹介

【2】何かしらのつながりで 孤立防止とみまもり

既存の見守りに加え
対面以外の方法でも社会
との「つながり」になる

- ・配食のサービス利用
- ・呼びかけ事業
- ・手紙、電話、SNSなど

・コロナ禍で、サービス
が使えなくなること
により、利用者に**多様な
社会資源**の利用を考
えるきっかけにもな
った。

22

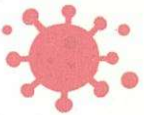
令和2年度 地域ケア会議 <全体会議> 「コロナ禍で見た地域課題」

② 高齢者の心身の健康状態について

発表者：小祝 知絵（アトリ工村）

検討メンバー：小林 純子（中央）
岡崎 真美（高齢者福祉課）

深澤 雅世（ふくろうの杜）
三宅 智也（高齢者福祉課）

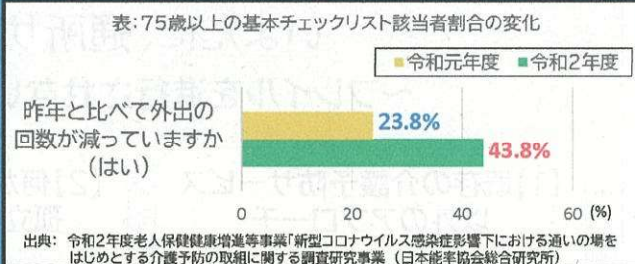


23

1) コロナ禍のなかで見えてきた地域の現状

外出頻度の低下

- ・基本チェックリスト：昨年より外出機会が減っている人が、約20%増加している。
- ・本人は外出したいが、家族が反対するケースもある。



身体機能の低下

- ・フレイルチェック：要フォロー者の割合が昨年度よりも約1.5倍高くなっている。
- ・元々フレイル、認知症、基礎疾患のある人などに負荷がかかっている。

表：豊島区のフレイルチェックの要フォロー者の割合の変化

年度	参加者数	要フォロー者数	要フォロー者の割合
R1	212人	60人	28.3%
R2 (7～10月)	157人	69人	43.9%

2)課題分析

コロナ禍による課題

- ・介護予防活動に「参加することへの恐怖」と「参加せずに状態が悪化すること」との間にジレンマがある。
- ・新型コロナに関する正しい情報を知らない。正しい情報を聞いたとしても、メディアからの情報で恐怖の方が上回る。

コロナ禍以前からの課題

- ・区の介護予防活動の情報が十分に伝わっていない。

25

3)課題に対してのアクション

～コロナ禍でも介護予防活動を続けていくために～

【1】安全な介護予防活動の場を確保する

- 区、包括、介護予防センター等が主体となって活動の場を増やしていく。
→ 感染防止対策を徹底し、高齢者が安心して参加できるようにする。
新型コロナウイルスに関する正しい知識を普及啓発できる。



【2】「集う活動」と「集わない活動」を選択できる

- モバイル講座など、オンラインでの介護予防活動を推進する。
→ 活動への参加が怖いと感じる人にも、介護予防に関する情報を伝え、介護予防のための取り組みをしてもらうことができる。

【3】新しい方法で介護予防活動を広める

- 「ウィズコロナの呼びかけ事業」のはがきで介護予防活動を周知する。
→ 区や包括がこれまでにかかわっていなかった層にも介護予防の情報を届け、介護予防のための働きかけをすることができる。



26

令和2年度 地域ケア会議 <全体会議> 「コロナ禍で見た地域課題」

③ 地域とのつながり

発表者：金 潤姫（菊かおる園）

検討メンバー：岩沢 照美（豊島区医師会）

織田 琴音（中央）

船津 輝茂（高齢者福祉課）

高橋 久恵（西部）

石川 純（高齢者福祉課）

矢野 和絵（高齢者福祉課）



27

1) コロナ禍のなかで見えてきた地域の現状

地域とのつながりの減少

- ・ 行事・情報・友人や近隣住民の訪問がなくなり孤立
- ・ 介護予防サロン等活動の中止
- ・ 「話し相手がいないと不安」などの声

コロナや地域活動等の情報不足

- ・ 限られた情報発信方法
- ・ 「活動の場所等の情報がほしい」などの声
- ・ コロナ対策全般（注意喚起の方法など）についての基準が不明確

28

2)課題分析

活動

- ・区民ひろばの利用制限
- ・活動団体等による取組・考え方の違い
- ・正しい情報入手の難しさ

外出・交流が少なくなり、要介護・フレイルが増加傾向にある。

家族・地域

- ・家族の知識・理解不足
- ・地域の商店等の知識・理解不足
- ・サロン活動等の担い手の負担

コロナ禍に“できないこと”の情報が多い。

通いの場の取組の開催・自粛率

4～5月
(緊急事態宣言下)



6～7月
(緊急事態宣言解除後)



- ◆地域のつながりが少なくなり、高齢者の状況把握の機会が減少する。
- ◆コロナや活動等について、情報が正しく、広く届けられていない。

令和2(2020)年12月 株式会社日本能率協会総合研究所
新型コロナウイルス感染症影響下における高齢者の心身への影響【中間報告】
(都道府県が把握している情報や一部市町村の情報の提供を受けた分析)

29

3)課題に対してのアクション

できることをやってみよう!

～状況把握・情報発信の機会を広げ、コロナ禍でも“できること”を伝える～

- 状況把握 -

- ・区民ひろばでの出張相談
- ・見守り協定の拡充

状況把握の機会を増やし、早期の働きかけ等により、孤立やフレイルの予防につなぐ。

- 情報発信 -

- ・としまテレビでのとしまる体操の放送
- ・家族等へのコロナや高齢者支援等について正しく学ぶ機会の提供

介護予防の視点や地域の介護予防情報等を広く正しく提供し、安心して外出してもらう。

■地域のつながりの維持

■新しい情報発信の工夫

■活動や支援等のより広い提案

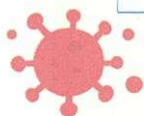
令和2年度 地域ケア会議 <全体会議> 「コロナ禍で見た地域課題」

④ 介護者との関係性

発表者：大井川 朋子（ふくろうの杜）

検討メンバー：前場 徳世（菊かおる園）
今井 有里（高齢者福祉課）
齋藤 清亮（高齢者福祉課）

浅輪 かな江（豊島区医師会）
浅野 奈々美（高齢者福祉課）



31

1) コロナ禍のなかで見えてきた地域の現状

虐待件数の増加、介護者の介護困難な状況・ストレスの増大

- ・外出自粛により介護者が気分転換できる時間が持てない
- ・別居家族が上京できず支援が滞る ・面会制限を恐れて入院させたくない
- ・もともと介護力の弱い家族のダメージが大きい

退院時の支援が困難

- ・入院面会制限によりカンファレンスなしで退院してくるため、サービス調整が難しい

地域との繋がりが希薄

- ・地域の支援者（近所の人・民生委員・サポーター等）がコロナ感染を心配して利用者宅に行かなくなっている ・問題の発見が遅れ、初期の介入も難しくなっている

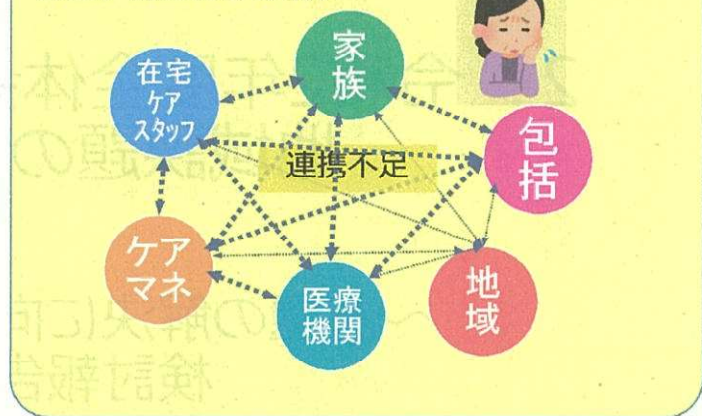
32

2)課題分析

面会制限により直接本人に会えない。本人情報は病院スタッフ頼りだが、具体的情報が得られにくい。外出自粛により地域との繋がりも希薄。



コロナ禍における現状



- ・面会制限や外出自粛により、退院時のサービス調整が困難
- ・在宅療養上の連携が難しい

- ・退院後のイメージがつかないまま退院
- ・地域の見守り支援が受けにくい

介護の負担感・孤立により
ストレスが増大
⇒虐待リスクの増加へ

33

3)課題に対してのアクション

～介護者が孤立せず、安心して介護生活が送れるために～

【1】介護者の孤立を防ぐ

- ①日頃からのアセスメントの視点（＝防災の視点）として、
本人と地域との繋がりについての把握
- ②介護者の会の開催・支援・ピアカウンセリング機能の強化

【2】退院後の介護イメージを持てるようにする

- ①医療機関・在宅支援チームの連携強化
- ②「初回アセスメント強化事業（元気はつらつ訪問）」の活用
- ③家族に向けた介護教室の開催

【3】ハイリスク介護者を早期発見し予防的に介入する

- ①記録等におけるリスク管理方法について包括間で共有
- ②地域の方から本人に対して手紙や電話、SNS等での声掛け

【目指す姿】



34

2. 令和2年度全体会議における 地域課題の検討

～課題の解決に向けて
検討報告まとめ～

35

全体を通して（課題へのアクションから）

取組むべき施策

介護予防 フレイル予防

- ・区民ひろばや通いの場などの活用
- ・行政主催の介護予防活動を一時的に増やす
- ・モバイル、オンライン、としまテレビ等の活用
- ・呼びかけ事業にフレイルチェックチケット

高齢者の見守り

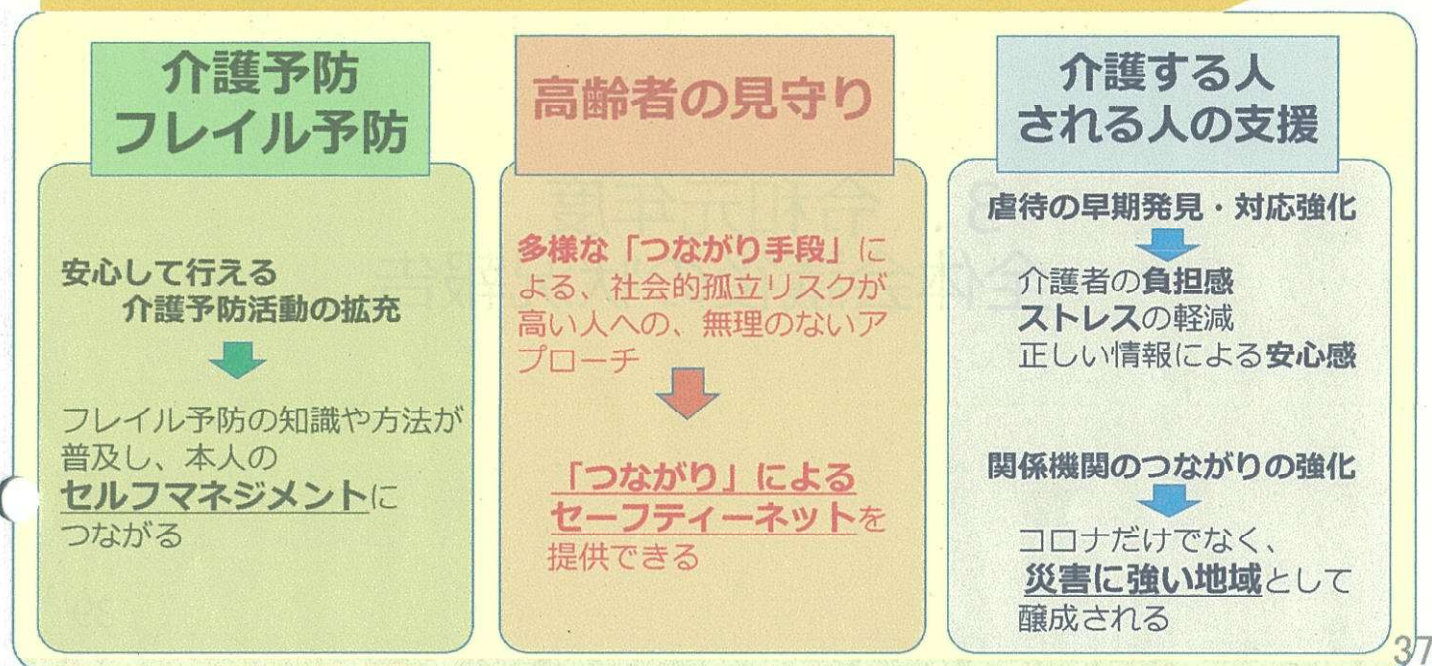
- ・配食などインフォーマルサービスも含めた見守りの拡充
 - ・モバイル、オンラインの活用
 - ・呼びかけ事業の実施
 - ・区民ひろばでの相談窓口で高齢者の状況把握
 - ・でんわ、手紙、SNSなど対面以外での「つながり」をつくる
- ⇒つながり手段の多様化

介護する人 される人への支援

- ・介護者同士のつながりの強化
 - ・退院時等の状況把握の一工夫により介護イメージを持つ
 - ・虐待リスクへの早期対応、予防対応
 - ・コロナ対策や高齢者支援の正しい知識を学ぶ場をつくる
- ⇒タイミングにあった、適切な情報提供

36

全体を通して（取組施策により期待される効果）



37

全体を通して（来年度の施策）

	介護予防 フレイル予防	高齢者の見守り	介護する人 される人の支援
令和3年度より 開始する事業 (新規拡充事業)	- 高齢者の保健事業と介護予防事業の一体的実施 - 高齢者への訪問・出張相談、介護予防推進支援、見守り強化事業	- ウィズコロナ呼びかけ事業（継続） - 高齢者あんしん位置情報サービス利用料助成事業	- 夜間緊急受付及び休日窓口の開設 - 在宅要介護者の受入体制整備事業 - 第2層生活支援コーディネーター事業 - 救急医療情報キット配布事業
今後、 検討していく項目	- 区主催の介護予防活動の拡充 - ウィズコロナ呼びかけ事業と介護予防活動の連動		「Ayamu」「MCS」の活用
地域ケア会議・包括専門職部会での検討・提案・実施			

38

3. 令和元年度 全体会議後の状況報告

39

令和元年度（R1.11月14日 開催） 全体会議で取り上げた地域課題

地域の支え手を活用
する仕組みづくり

全体会議で検討

関連する機関への働きかけ

豊島区民社会福祉協議会

→令和2年10月より高齢者福祉課と連絡会を
設置。（月1回開催）

「①リボンサービスの拡大」

「②地域福祉権利擁護事業」について、
意見交換を実施。

10/15・11/12・12/18・2/3開催

40

【令和元年度】全体会議後の状況報告

地域課題「地域の支え手を活用する仕組みづくり」

1. 社会福祉協議会への働きかけ

①リボンサービスの拡大

連絡会で挙げた
3つの課題

1) リボンサービスの活動の理解へ向けて

2) 協力会員を増やす

3) 協力会員に活動を継続してもらう

41

【令和元年度】全体会議後の状況報告

地域課題「地域の支え手を活用する仕組みづくり」

①リボンサービスの拡大

1) リボンサービスの活動の理解へ向けて

- ・ リボンサービスは「**ボランティア活動**」
⇒できる人が、できる時に、できるだけ
- ・ やって欲しい「作業」ではなく、
「**誰が・なぜ**」困っているかに着目したマッチング

依頼者と共有したい
ポイント

→ 「包括センター長連絡会（2月16日開催時）」にて、
包括センター長と**意見交換会**実施

42

【令和元年度】全体会議後の状況報告

地域課題「地域の支え手を活用する仕組みづくり」

①リボンサービスの拡大

2) 協力会員を増やす

3) 協力会員に活動を継続してもらう

取組み案

- ・家事援助スタッフ育成研修会参加者へのアプローチ
- ・65歳対象に、「担い手募集お便り」の郵送
- ・協力会員への研修の拡充 など

今後も定例開催の連絡会にて、検討継続

43

【令和元年度】全体会議後の状況報告

地域課題「地域の支え手を活用する仕組みづくり」

1. 社会福祉協議会への働きかけ

②地域福祉権利擁護事業

課題 (R3.2/3 連絡会にて)

依頼側の目的

主に「金銭管理のサポート」
として利用したい

ミスマッチ

事業側の考え

基本サービスは
「福祉サービスの利用援助」

利用の流れ

依頼～契約

サービス利用

入院

利用開始までに
2～3か月かかる

契約内容によってはサービスが中断
⇒入院費の支払いなど金銭管理する
人が不在

今後の連絡会にてアクションを検討

44

【令和元年度】全体会議後の状況報告

地域課題「地域の支え手を活用する仕組みづくり」

2. 地域資源データベース「Ayamu」の活用

1) Ayamuへの 情報登録の拡充

【地域のインフォーマル 団体情報の登録】

- ・サロン
- ・としまる体操
- ・大人食堂
- ・認知症カフェ
- ・趣味・貢献活動
- ・活動に使える場
など

2) Ayamuの 情報提供について

使用承諾を得た
団体の情報



区民に情報提供を開始

【提供拠点】

- ・高齢者総合相談センター
- ・CSW窓口

3) Ayamuの 今後の活用

【活動と担い手の マッチング】

⇒「担い手を受け入れている活動の検索機能」を活用したマッチング

【コロナ禍での活動支援】

⇒情報提供を実施

- ・他団体の活動状況
- ・活動に使える場

【令和元年度】全体会議後の状況報告

地域課題「地域の支え手を活用する仕組みづくり」

3. 担い手の発掘・支援

担い手支援 ガイドの作成

年金支給年齢に当たる65歳の高齢者を対象に、就労的活動やボランティアなどご本人の趣向にあった地域での活躍の場を紹介したパンフレットの作成を検討します。

第2層生活支援 コーディネー ターの設置

高齢者の生活支援や介護予防など地域に不足している資源を地域の支え手を活用しながら開発する生活支援コーディネーターを包括圏域（第二層）ごとに配置します。（令和3・4年度）

就労的活動支援 コーディネー ターの設置

就労的活動やボランティア活動などの担い手の発掘や支援を望む方とのニーズとのマッチングを進めていく就労的活動支援コーディネーターを令和4年度の設置に向け検討を進めます。

4. 平成30年度 全体会議後の状況報告

47

平成30年度（H30.11月15日 開催） 全体会議で取り上げた地域課題

災害への備え

（関連する会議体なし）

医療と介護連携

認知症を地域で 支える

PTの立ち上げを全体会議で報告

全体会議で
検討

関連する会議体に提言

在宅医療連携推進会議

認知症施策推進会議

包括運営協議会へ報告

48

【平成30年度】全体会議後の状況報告

地域課題「災害への備え」

災害PT（地域包括支援センター・高齢者福祉課）

開催状況

令和元年度	2年度
9回	4回

令和元年度は月1回45分を目安、
令和2年度は2月に1回90分を目安
に実施

成果

○地域包括支援セン
ターの発災直後におけ
るガイドラインの作成

○安否確認者リストの
作成

今後の取り組み

○ガイドラインを基に
初動対応マニュアル
（アクションカード）
の作成

○安否確認の新たな枠
組み等の検討を始めて
いる。

49

【平成30年度】全体会議後の状況報告

地域課題「認知症を地域で支える」

- 認知症小冊子「もしも」を媒体とした普及啓発、
講演会開催、としまテレビ、YouTube公開
- Zoomによる認知症サポーター講座開催
- コロナ禍での認知症カフェ再開・持続を応援する取り組み
- 認知症検診は、認知症普及啓発事業と変更して実施
- 認知症地域支援推進員を1名増加し、包括訪問を毎月実施

もしも

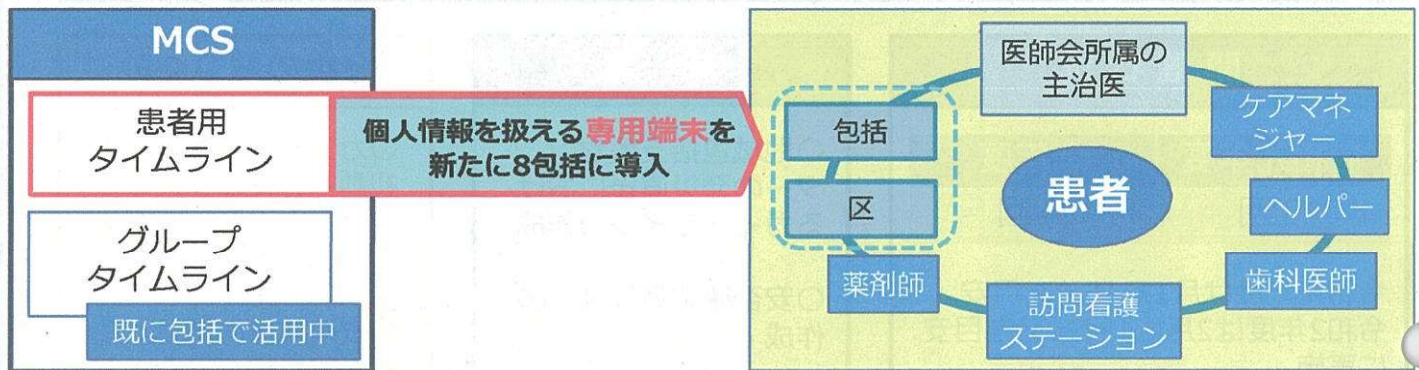


50

【平成30年度】全体会議後の状況報告

地域課題「医療と介護連携」

メディカルケアステーション(MCS)への区及び包括の参画



導入の効果

- ・多職種間の連携の迅速化・円滑化
- ・個人情報保護の強化

51

ありがとうございました

52